

# 第1回審議会での質問への回答

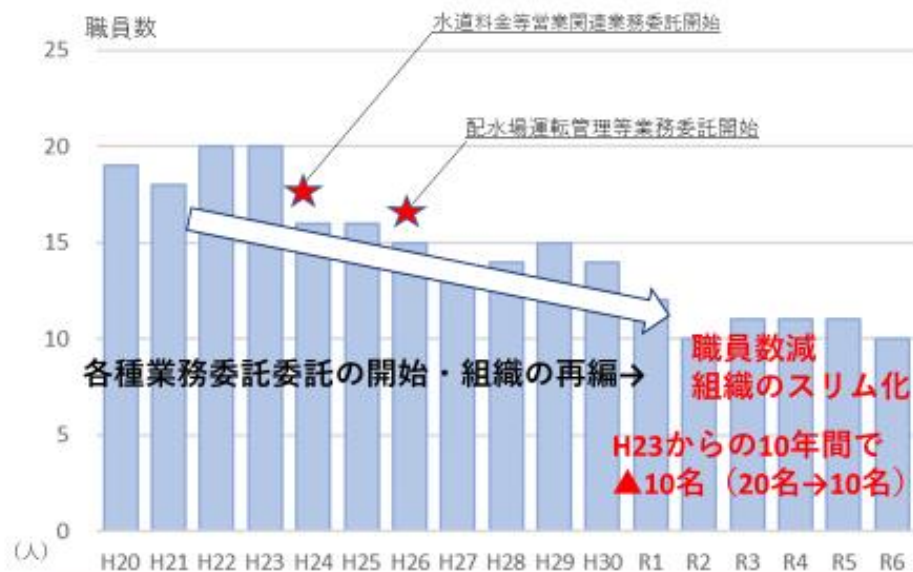
令和6年12月  
津島市上下水道部

# 質問 1

組織の合理化として、外部委託を図ったが、職員給与費の減少に対して、委託料の増加が大きい可能性について

## 2. 津島市水道事業の取組

### (4) 組織の合理化



業務の効率化による職員数減や組織のスリム化を実現

# 回答

## (1) 水道料金等営業関連業務委託（平成24年度）

増加

委託料 年間 43,218千円（税込み）

減少

職員数 委託により **4名減**

検針・集金業務委託、アルバイト賃金など

合計減少額 年間 約47,742千円（税込み）

→ **削減額 年間 約450万円**

## (2) 配水場運転管理等業務委託（平成26年度）

従前の委託業務についてプロポーザル方式にて業者選考を行ったことによるため人員の減少は無し

**金額はほぼ同額**

### (3) その他

組織の再編など職員削減（6名）

人件費 約800万円（1人）× 6人 = 4,800万円

#### まとめ

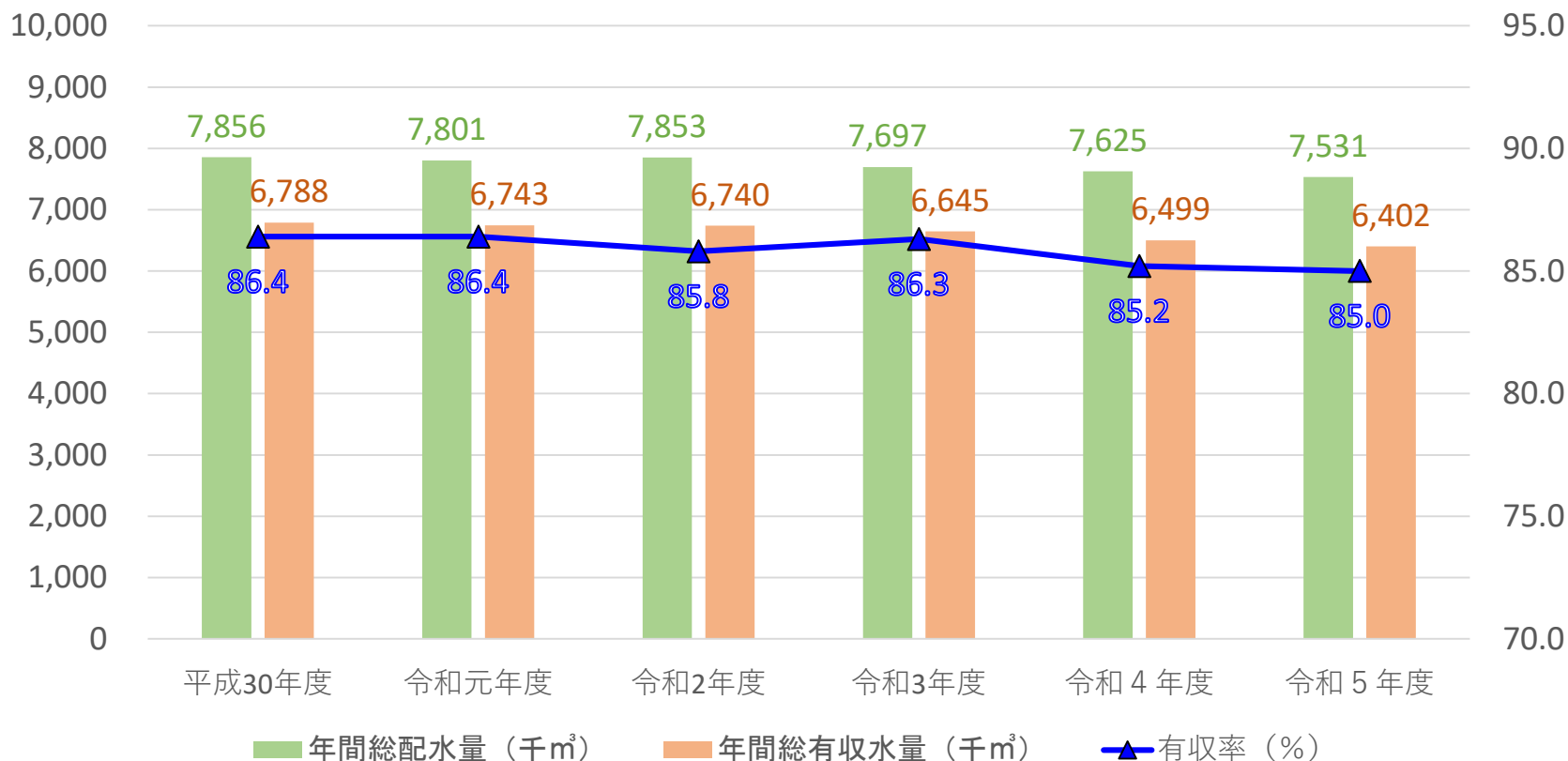
人件費としては委託による削減額は450万円程度であるが、組織の再編などで約4,800万円の削減し、

合計で約5,250万円削減

## 質問 2

水道事業が実際に収益を上げているか確認するため、有収水量等の具体的な数値も知りたい。

年間総配水量・年間総有収水量・有収率の推移



# 回答

## 1 【年間総配水量・年間総有収水量】

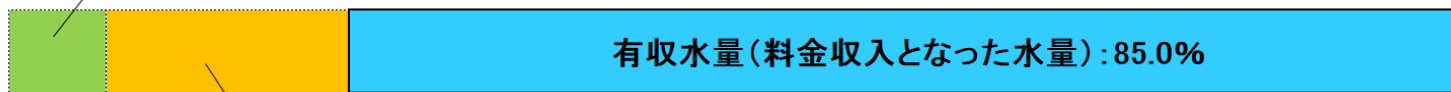
・直近6年間で、配水量、有収水量ともに、人口減少や節水機器の普及などにより、減少している。

## 2 【有収率】

(1) 直近6年間、概ね85～86%で推移している。

(2) 残りの約15%は、主な要因としましては、地下漏水や水質保全のための計画放水によるものと考えます。

無収水量（水質改善のため、ドレンなどで計画的に放水する量）：2.0%



無効水量（漏水などの不明水量）：13.0%

※この有収率は、高いほど効率的であります。市民の皆さまに届ける前に、配水管などから漏水してしまえば無駄になってしまいます。上下水道部では漏水調査や老朽化した配水管の布設替え工事などを行うことで、漏水を防止し、有収率の向上に努めています。

### 質問 3

他市町の状況、現状の単価、今後の値上げ予定について

→ **第 2 回水道料金等審議会資料**で説明いたします。